

第 112 回 温度計測部会

「新日本製鐵(株)君津製鐵所見学会」報告

主催： 計測自動制御学会 計測部門

企画： 温度計測部会

7月4日(金)に開催された新日本製鐵(株)君津製鐵所の見学会について概要を報告します。

当日は君津製鐵所殿のご協力を得て、参加者総数25名にて予定通り開催しました。

最初に広報担当安増様より君津製鐵所全般の概要説明を受け、広報ビデオを拝聴した後、熱間圧延工場、第4高炉、転炉プロセス工場を順に見て回りました。なにぶん製鐵所敷地があまりにも広大であるため、バスをチャーターしての移動となりました。

熱間圧延ラインでは厚さ240mmの真赤なスラブが長さ数百mにも及ぶ粗圧延、仕上圧延工程を経て、所定の厚さ(数mm～十数mm)の鋼板となる様子を徒歩にて見学しました。最初は圧延ローラーの上をゆっくり移動していたスラブが見る見るうちに長い板となり、ついには毎時84kmの猛スピードで突っ走り、コイルに巻き取られる様子は圧巻でした。また工場内に人影はほとんど無く、温度制御はもちろんのこと圧延ローラーの速度制御等全てがコンピュータによってコントロールされているのを実感しました。

次にバスの車内から現在世界最大の高炉である第4高炉を見上げて、転炉工場に入りました。鋼の性質は7割方この転炉プロセス(吹錬=溶銑に酸素を吹き込むことで主に炭素を取り除く)によって決まるそうです。幸運にも最終作業であるオペレータが炉の中から湯をサンプリング(真赤なボールを取り出すように)して、所定の炭素含有量であることを確認する様子を拝見できました。まるでオリンピックでの神聖な聖火儀式のような雰囲気でした。

最後に広報センターに戻り、質疑応答の後、解散となりました。無事見学会を終了することが出来、君津製鐵所殿初め、参加された皆様全員にお礼申し上げます。



新日本製鐵(株)君津製鐵所全景

新日本製鐵(株)君津製鐵所 URL
<http://www.kimitsu.nsc.co.jp/>